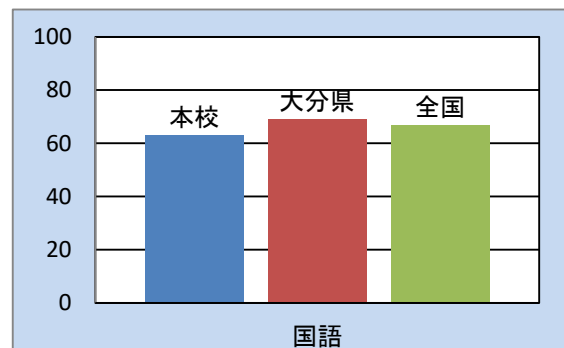
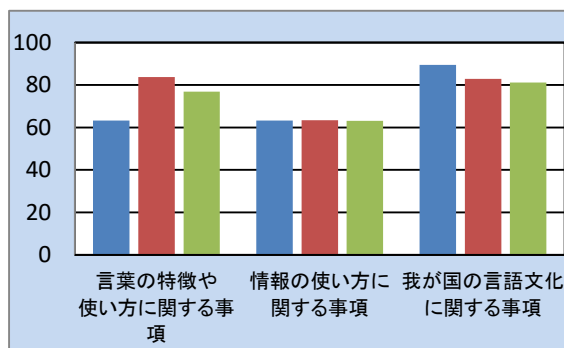


令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果 6年 国語 大分市立川添小学校

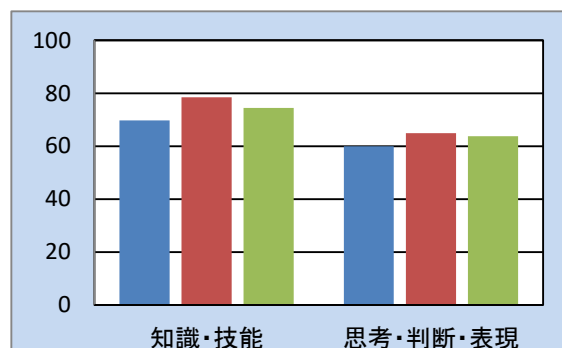
平均正答率			
	本校	大分県	全国
国語	63.0	69.0	66.8



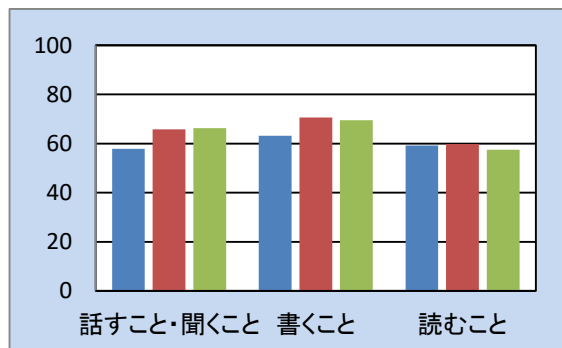
学習指導要領の内容別正答率 知識・技能			
	本校	大分県	全国
言葉の特徴や使い方にに関する事項	63.2	83.8	76.9
情報の使い方にに関する事項	63.2	63.4	63.1
我が国の言語文化に関する事項	89.5	82.9	81.2



評価の観点別正答率			
	本校	大分県	全国
知識・技能	69.7	78.5	74.5
思考・判断・表現	60.0	64.9	63.8



学習指導要領の内容別正答率 思考力・判断力・表現力等			
	本校	大分県	全国
話すこと・聞くこと	57.9	65.8	66.3
書くこと	63.2	70.6	69.5
読むこと	59.2	59.8	57.5



【分析結果】

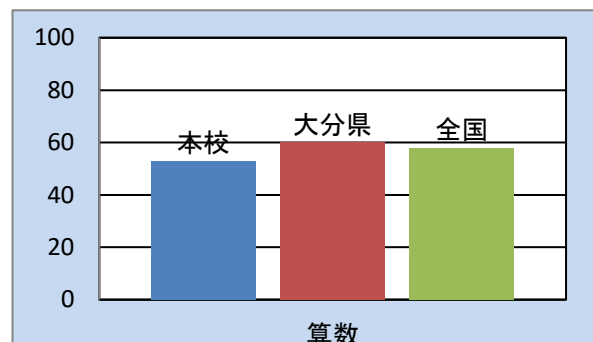
○評価の観点別正答率では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」において、大分県平均・全国平均共に下回っている。
 ○「思考力・判断力・表現力等」においては、「読むこと」については全国平均を上回るが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が、それぞれ8.4ポイント、6.3ポイント下回った。
 ○「知識・技能」においては、「我が国の言語文化に関する事項」について、全国平均を8.3ポイント上回った。「情報の使い方に関する事項」については、ほぼ差はなく、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、13.7ポイント下回った。

【改善方法】

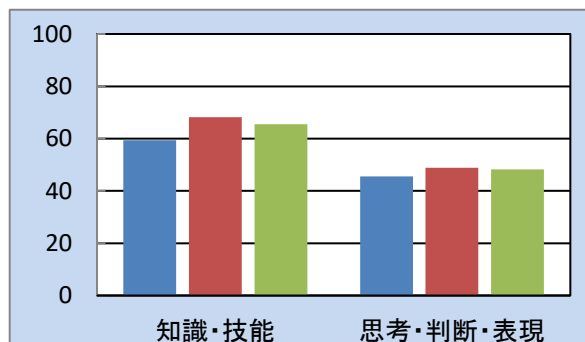
○既習の漢字を正しく使うことに苦手意識が見られたので、普段の授業における振り返りや、日記を書く場面において、既習の漢字を使うように指導していく。
 ○「話すこと・聞くこと」に関しては、ペアやグループでの話し合い活動の機会をさらに増やしていく。話し手は話す目的・意図を明確にすることや話の構成を考えること、聞き手は話し手の目的や意図を捉え、自分の考えと比較しながら聞いたり、考えをまとめたりすることの指導を充実させる。
 ○「書くこと」に関しては、各学年の目標を決め、授業や家庭学習で視写や条件作文に取り組む。また、教師が添削を行う際には、その学習課題でねらいとしていることにしぼって添削を行うなど、ねらいを明らかにした指導の充実を図る。
 ○「読むこと」ことに関しては、複数の資料から読み取ったことの共通点や相違点を見つけるなど、資料を関連付けて学びを進められるような学習に取り組んでいく。

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果 6年 算数 大分市立川添小学校

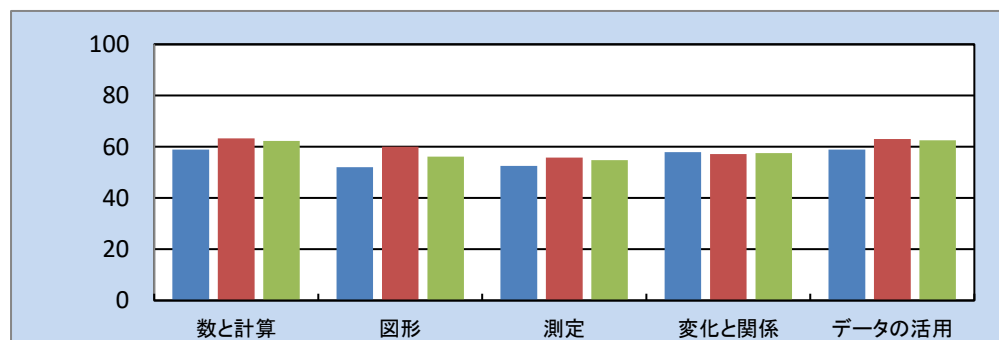
平均正答率			
	本校	大分県	全国
算数	53.0	60.0	58.0



評価の観点別正答率			
	本校	大分県	全国
知識・技能	59.4	68.2	65.5
思考・判断・表現	45.5	48.9	48.3



学習指導要領の領域別正答率			
	本校	大分県	全国
数と計算	58.9	63.3	62.3
図形	52.0	60.0	56.2
測定	52.6	55.8	54.8
変化と関係	57.9	57.2	57.5
データの活用	58.9	63	62.6



【分析結果】

○評価の観点別正答率は、「知識・技能」で6.1ポイント、「思考・判断・表現」において2.8ポイント全国平均から下回っている。

○領域別正答率では、「変化と関係」の領域以外で全国平均を下回っている。

○正答率が60%以下の問題として、

・出荷量の割合 ・作図の過程を読み取る ・図形の面積の求め方を書く ・小数 ・異分母のもとになっている量 ・はかりの目盛り ・割合 が挙げられ、課題が残ることが分かった。

【改善方法】

○算数を苦手とする児童が多いことから、授業中の机間指導や休み時間などの個別指導、保護者と地域の学習サポーターの協力を得た週2回の「お助け教室」を充実させるなどして、児童の理解の程度を把握した指導の改善を図る。

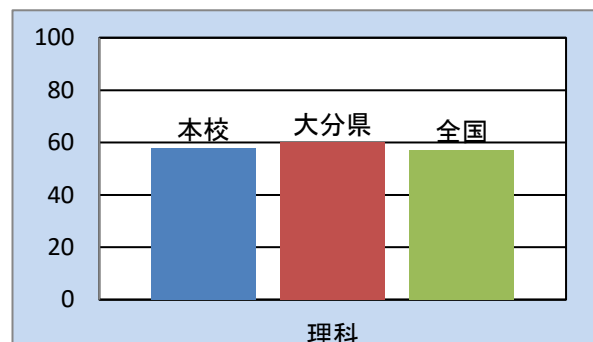
○文章問題を解く際には、「何を問われているのか」を意識させると共に、最後まで解こうとする集中力を身に付けるための授業改善に取り組む。

○授業では、ノートに計算式や答えを書くだけでなく、自分の考えを言葉でも書く活動を積極的に取り入れる。考えを発表・交流する場を大切に、順序立てて説明する力や論理的に思考する力を養うようにする。

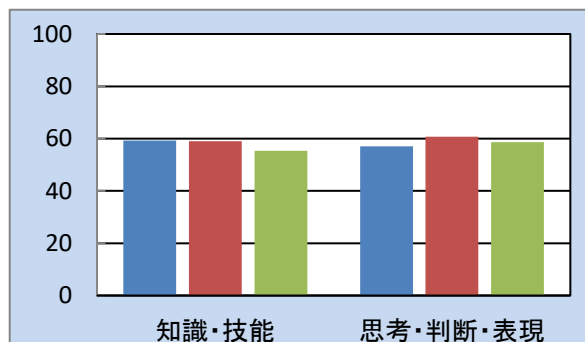
○一人一台端末を活用し、図形を操作する活動を取り入れることで図形についての感覚を豊かにしたり、タブレットに書き込んだ考えをペアや全体で共有したりするなど、ICTを積極的に授業に取り入れる。

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果 6年 理科 大分市立川添小学校

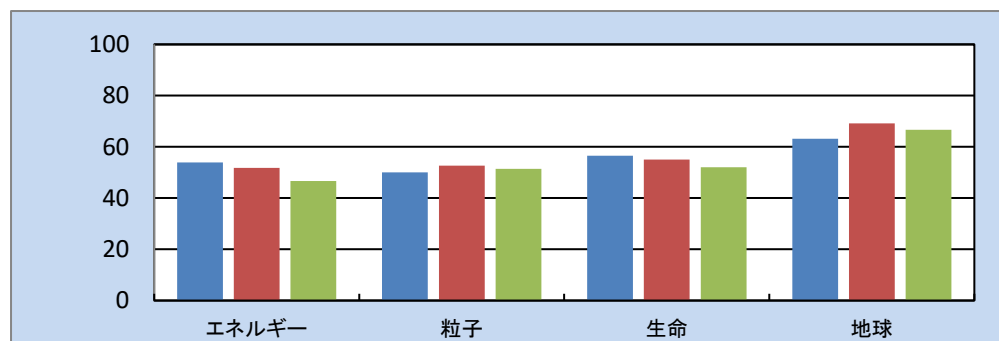
平均正答率			
	本校	大分県	全国
理科	58.0	60.0	57.1



評価の観点別正答率			
	本校	大分県	全国
知識・技能	59.2	59.0	55.3
思考・判断・表現	57.0	60.7	58.7



学習指導要領の領域別正答率			
	本校	大分県	全国
エネルギー	53.9	51.8	46.7
粒子	50.0	52.7	51.4
生命	56.6	55.1	52.0
地球	63.2	69.2	66.7



【分析結果】

○評価の観点別正答率は、「知識・技能」で3.9ポイント全国平均から上回り、「思考・判断・表現」において1.7ポイント下回っている。

○領域別正答率では、「エネルギーを柱とする領域」と「生命を柱とする領域」で全国平均を7.2ポイント、4.6ポイント上回り、「粒子を柱とする領域」と「地球を柱とする領域」で1.4ポイント、3.5ポイント全国平均を下回っている。

○正答率が60%以下の問題として、

・電池のはたらき ・発芽の条件 ・もののあたたまり方 ・水の三態変化 ・応用問題 が挙げられ、課題が残ることが分かった。

【改善方法】

課題として以下の3点が考えられる。それについての改善策を講じていく。

①基礎的な知識が不足している。

→校内の学習用掲示板等に理科で使う用語を掲示することにより意識付け、言葉の定着を図る。

②問題を読み取る力が不足している。

→ICTを活用した授業を行うことで、一人一人が資料をじっくり読み取って考える機会を増やす。

③学んだことが実生活と結びついていない。

→授業の中で実生活に結びつけるための時間を十分に確保する。